

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 4 月 5 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (4/5 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9 m ³ /h	20.1	107.2 kPa abs	A系： 0.17 vol %
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.18 vol %
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.5 m ³ /h	33.7	6.08 kPa g	A系： 0.09 vol %
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.09 vol %
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.5 m ³ /h	32.6	0.27 kPa g	A系： 0.16 Vol %
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.16 vol %

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (4/5 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	15.5
2号機	循環冷却システム	運転中	16.8
3号機	循環冷却システム	運転中	15.0
4号機	循環冷却システム	運転中	23

：各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

[3号機]

・H25/4/5 14:27 頃 電源関係の動力盤故障警報が発生し、使用済燃料プール代替冷却システムが停止していることを確認。同日 15:50 から 16:00 に影響を受けた電源設備の絶縁抵抗測定を開始し、異常のないことを確認。16:16 より、同システムの運転再開操作を開始。なお、本事象は、3/18 の停電事故の対策として、同システム動力盤の小動物防止対策工事(侵入防止網の設置)を行っていたことから、工事中に地絡を起こした可能性が高いと思われる。

同日 14:00 時点の使用済燃料プールの水温は 15.1 であり、温度上昇率は、4/5 時点で約 0.145 /h と評価していることから、保安規定上の管理温度 65 に達するまで約 2 週間と予測している。現時点で、モニタリングポストの値に変動はなし。停止している同システムは 4/5 中に復旧する見込み。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	4/5 10:29 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	3/22 14:16 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している 5・6 号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (4/5 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/3/30 9:56 ~ 多核種除去設備(ALPS)の3系統(A~C)のうちA系統において、水処理設備で処理した廃液を用いた試験(ホット試験)を開始。
- 4/4 5:23 頃 多核種除去設備(ALPS)が、誤操作により停止。停止後、現場確認を実施したが異常がないことから、6:33 系統の残水処理を開始。残水処理開始後の運転状態に異常なし。その後、4/4 18:54 に系統の残水処理を終了。再発防止対策の検討を行っており、対策を行った上で、運転を再開する予定。

< 5 . その他 >

- ・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5,6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H25/1/8 ~ 4号機燃料取り出し用カバーのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。
- ・H25/4/5 15:03 ~ 15:37 5号機原子炉建屋天井部穴の閉止について、閉止箇所の健全性を確認するため、原子炉建屋の気密性確認を実施し、異常がないことを確認。
- ・H25/4/5 12:55 頃 ほう酸水注入設備タンクAのNo.2ヒータのケーブルの変色および端子台の焦げ跡を、No.1ヒータ点検を行っていた当社社員が発見。同日 13:05 双葉消防本部に連絡。ほう酸水注入設備タンクAのNo.2ヒータケーブルの変色および端子台焦げ跡について、同日 13:45 にNo.1ヒータに切り替え、ほう酸水注入設備タンクAのほう酸水温度制御を再開。No.1ヒータの運転状態に異常なし。ほう酸水温度は、No.1ヒータの動作確認(通電確認)により、温度制御停止前の約 15 から約 18 に上昇しており、運転上の制限値(ほう酸水溶解度に対するほう酸水温度)約4 に対し十分余裕がある状況。同日 15:30 富岡消防署による確認の結果、火災ではないと判断された。

* ほう酸水注入設備

ほう酸は中性子を吸収する能力を持っており、原子炉圧力容器内あるいは原子炉格納容器内に存在する燃料デブリが再臨界または再臨界の可能性がある場合に、未臨界にする、または再臨界を防止するために注入する設備。溶けているほう酸が析出しないようヒータで温めている。
なお、万が一の場合に備えて待機している設備で、通常原子炉冷却に使用している設備ではない。ほう酸水注入設備タンクは、高台炉注水ポンプ脇に2基設置している。

以上